

CSJ Annual Report
2020

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message	01
2019年度活動ピックアップ・2020年度活動方針	02
表彰事業	03
春季年会・CSJ化学フェスタ	04
講演会・講習会・実験教室の開催	06
化学を広める・未来の化学者を育てる	08
キャリア支援	10
論文誌・出版	12
社会に向けた様々な取り組み	14
グローバリゼーション	16
企業・団体からのご支援	17
化学会概要	18
会計報告	20
ノーベル賞受賞会員	

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

Top Message

——世界の化学会を目指して

地球と共存する化学

5月25日に日本化学会の会長に就任いたしました。任期の2年間、副会長、理事の皆様方のご協力を得て、日本化学会の一層の発展に尽力して参ります。宜しく願いいたします。

日本化学会会長に就任するにあたり、我々を取り巻く世界の現状を把握し、その中で化学が果たすべき役割について、私の考えを述べさせていただきます。

現在の社会においては、「グローバル化」「デジタル化（AI化）」「ソーシャル化」の3つの大きなうねりの中で、既成概念が覆されるような急激な環境変化が起きています。米国、英国に代表されるポストグローバル化への波、世界的なデジタルプラットフォーマーの台頭、AIや量子技術の急激な進歩など、時代は革命期に突入していると言えるでしょう。そのうえ、昨今の新型コロナウイルス問題が終息した暁には、生活形態や価値観の大きな転換が想定され、あらゆる戦略を大胆に見直すことが必須となります。一方で、我々の目の前には気候変動問題、海洋プラスチック問題、食糧・水問題、あるいは先にも述べた新型コロナウイルスによるパンデミック等に代表される世界的規模の解決すべき課題が山積みされています。このような時代の変化に鋭敏に対応し、世界規模の課題への解決策を提供していくことが、「化学」に最も期待されていることだと考えています。

これまで、化学産業は大気や海を汚染するものの代名詞のように扱われてきましたが、その反省を活かすことで、青く澄んだ海やホテルが生息するきれいな淡水や空気を取り戻すことができました。つまり、化学産業は自ら招いた環境破壊に対し、自らの経験と技術を活用して solution provider としての役割を果たしたのです。「化学」の力をもってすれば、世界規模の課

題に対しても必ずや解決策を見出すことができるでしょう。そのためにも、以下を実現できるような環境を整備し、新たなイノベーションを産み出す「場」を提供できるよう、日本化学会としての活動を推進していきたいと考えています。

- ①最先端の研究活動を継続的に推進し、新たなイノベーションの種となる化学的発見・技術開発を加速する。
- ②研究成果を実装するために異領域（学問間、産学官、国内外）との連携・融合など（オープンイノベーション）が重要であることを認識し、自らの研究活動を推進する。
- ③次世代を先導していく化学系人材を育成するとともに、日本の研究環境をより魅力的なものへと発展させる。

これらを実現するためには、「化学」の叡智を結集することも必要です。そのために、化学系の学協会同士の交流もさらに深化させたいと思います。また、川合先生はじめ歴代の会長が取り組んでこられた日本化学会の運営改革を継続し、事務局機能の強化も着実に進めていきます。会員の皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人日本化学会 会長
株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長
小林喜光



2019年度活動ピックアップ・ 2020年度活動方針

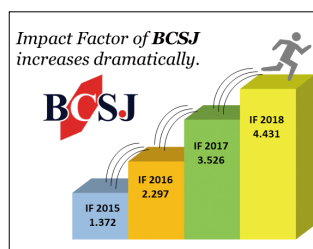
2019年度活動ピックアップ



第99春季年会開催@甲南大学(3月)



春季年会にて物理学会との連携イベント開催(3月)



BCSJのインパクトファクター4.431へ上昇(6月発表)



15ヵ国の化学会がSDGsへの取り組みに合意@フランス(7月)



国際化学オリンピック フランス大会派遣 金2銀2(7月)



企業現場見学会(9月)



CSJ化学フェスタにて吉野彰先生講演会開催(10月)



国際周期表年2019閉会式実施@東京(12月)

2020年度活動方針

重点項目

強化すべき活動領域	グローバル化
	産学連携活動
	ジャーナル改革とビジビリティ向上
	人材育成と教育普及活動
150周年に向けた改革(2028年)	持続可能な化学会構築
	研究交流活動の進化
化学会の組織基盤の強化	会員の維持・増強に向け組織的な取組の強化
	事務局機能の強化, 業務効率化推進
	財務体質の強化
	組織体制の見直し

表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績, 並びに我が国の化学工業の技術開発, 化学教育上の業績, 本会活動への功績について, 毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ, 理事会の審議を経て決定, 受賞者の表彰を行っています。

2019年度各賞受賞者 (敬称略)

第72回日本化学会賞

塩谷光彦 (東大院理)
杉本直己 (甲南大先端生命研)
野崎京子 (東大院工)
三浦雅博 (阪大院工)
村上正浩 (京大院工)
山下正廣 (東北大材料研)

第37回学術賞

芥川智行 (東北大多元研)
安倍 学 (広島大院理)
小島隆彦 (筑波大数理物質)
駒場慎一 (東理大理)
田中克典 (東工大物質理工院/理研)
平岡秀一 (東大院総合文化)
廣田 俊 (奈良先端大)
宮坂 等 (東北大金研)
森 敦紀 (神戸大先端膜研)

第69回進歩賞

池本晃喜 (東大院理)
数間恵弥子 (理研)
木下卓巳 (東大院総合文化)
関 朋宏 (北大院工)
田村朋則 (京大院工)
細野暢彦 (東大院新領域)
南 豪 (東大生産研)
村上 慧 (名大ITbM)

第8回女性化学者奨励賞

小阪田泰子 (阪大高等共創院)
若林里衣 (九大院工)

第68回化学技術賞

西村佳史
近藤孝彦
河添慎也
池尻澄雄
野崎貴司
(以上, 旭化成)
青島敬之
亀尾広志
横山和之
金子清貴
(以上, 三菱ケミカル)
浦田尚男 (三菱ケミカルHD)

第25回技術進歩賞

該当なし

第44回化学教育賞

多賀圭次郎 (名工大)
西原 寛 (東大院理)

第37回化学教育有功賞

神田昌彦 (青森県平川市立竹館小)
後藤顕一 (東洋大食環境)
富田一茂 (北海道旭川東高)
福満 晋 (島根県立浜田高)

第38回化学技術有功賞

近藤聖彦 (分子研)
鈴木健吾 (浜松ホトニクス)
山本悠太 (名大)



春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った

様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」

「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的として開催しています。

春季年会

国内外から7,000名を超す参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして毎年3月中旬～下旬に4日間連続で開催されます。講演件数は5,000件を超え、最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができます。同時に国際化に向けて年会の英語化も推進しており、2019年は全体で33%が英語の発表、口頭B講演に関しては76.4%が英語で発表されています。また、市民が参加できる講演も複数開催される等、地域社会にも広く門戸が開かれていることも特徴です。来年以降も参加者の声を反映させ、より魅力的な場をつくっていきたいと考えています。

2019年実績

● 第99春季年会

参加者数：7,038名 講演件数：5,119件

会場：甲南大学 岡本キャンパス（兵庫県）



〔上〕ポスター・展示会場 〔下〕オーラル発表

CSJ 化学フェスタ

2011 年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年 10 月中旬～下旬に 3 日間連続で開催され約 3,000 名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野の最新の化学と技術を紹介する 200 件を超えるテーマ企画講演および約 1,000 件の学生ポスター発表を聴講できます。2 日目の夜には、500 名（学生 400 名）が参加する国内最大級の懇親会が開催され、業種や年齢の違う多くの仲間を作れる場として有効に活用されています。第 9 回ではノーベル化学賞の発表からわずか 5 日後のノーベル賞解説講演会にご本人が登場し、まさに『世界一早い』解説講演会兼記念講演会が実現しました。今後も、産学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていく予定です。

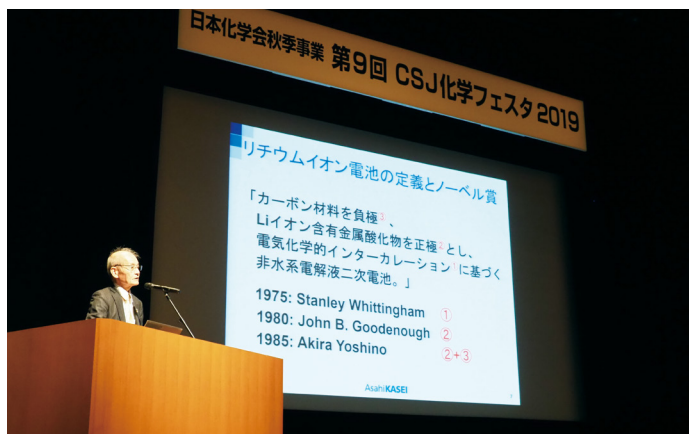
2019 年実績

● 第 9 回 CSJ 化学フェスタ

参加者数：2,832 名

講演件数：1,224 件

会場：タワーホール船堀（東京都）



〔上・中〕日本一早い
ノーベル賞解説講演
吉野彰先生ご本人登壇
〔下〕ポスター発表

市民に開かれた講座

春季年会、CSJ 化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さまに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。今後も化学の啓発活動を継続して実施していきます。



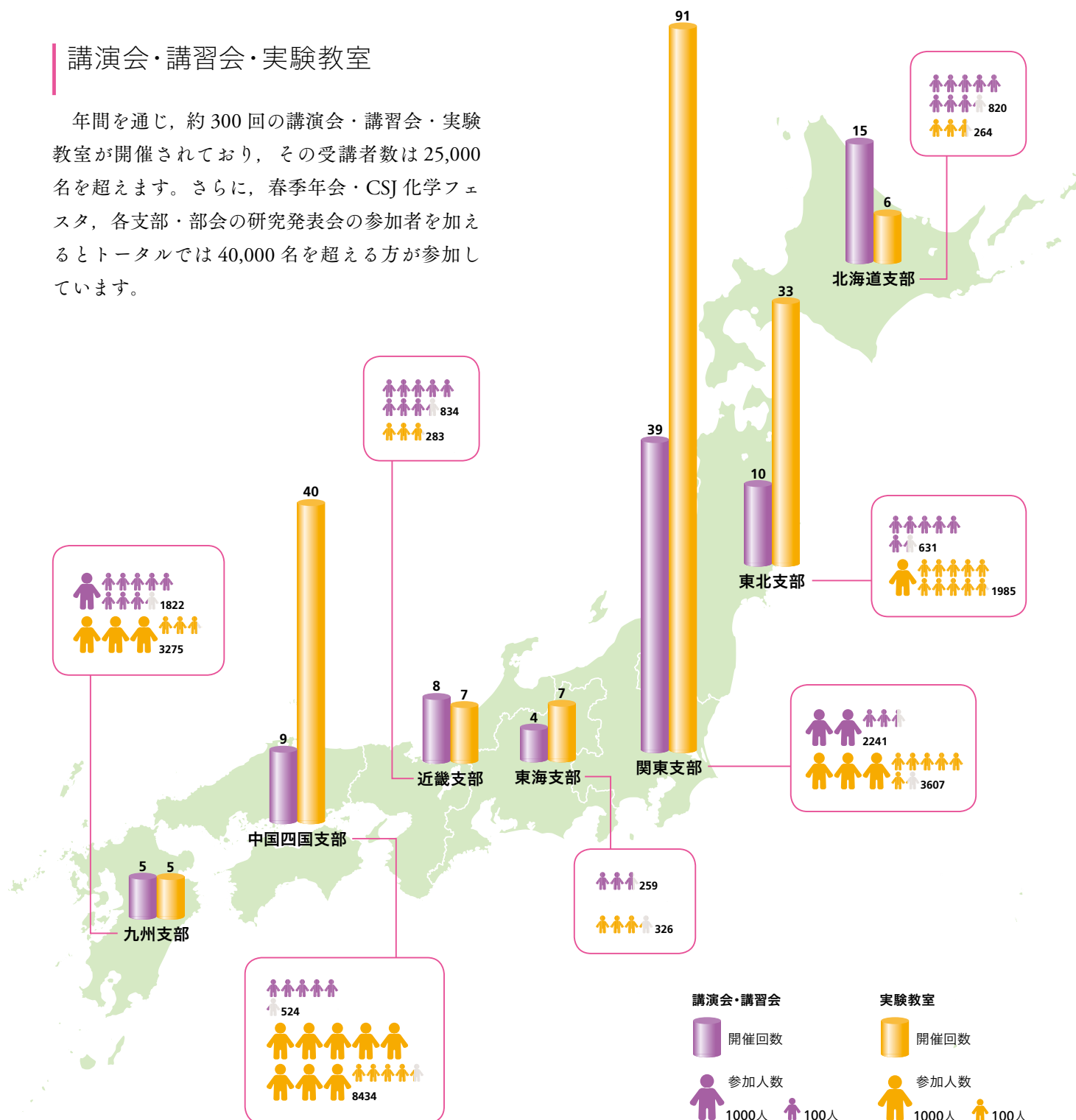
クイズショー（第 99 春季年会）

講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ 化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

講演会・講習会・実験教室

年間を通じ、約 300 回の講演会・講習会・実験教室が開催されており、その受講者数は 25,000 名を超えます。さらに、春季年会・CSJ 化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会の参加者を加えるとトータルでは 40,000 名を超える方が参加しています。



R&D 懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的の一つです。近年は講演会だけでなく、研究所の見学会も企画され、業務知識として必要な方だけでなく、最新の化学技術に興味がある方など多くの方が参加しています。

2019年実績

開催回数：6回（内1回 見学会）
参加者数：205名（見学会 20名）
会場：化学会館（東京都）他



化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。いずれの講座も分かりやすく丁寧な講義で受講者に好評です。さらにランチミーティングや懇親会を活用することで、講師・受講者間の交流が生まれ、人的ネットワークの形成に役立っていることもこの講座の大きな特徴です。

2019年実績

開催回数：6回
参加者数：183名
会場：化学会館（東京都）



化学安全スクーリング

化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

2019年実績

開催回数：1回
参加者数：57名
会場：化学会館（東京都）



化学を広める・ 未来の化学者を育てる

お子さんから大人まで多くの方に
化学を身近に感じてもらいたい、魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、
様々な取り組みを実施しています。

実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2019年実績

開催件数：189件

参加者数：約18,000名



〔上〕 出前化学実験教室（愛知県）

〔下〕 宇都宮大学 1 日体験化学教室（栃木県）



化学の日（10月23日）

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1molの物質中に存在する粒子の数＝ 6.02×10^{23} 乗）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いのもと、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日にちなんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



国際周期表年 2019 特別企画「周期表博士をめざそう！」（東京都）

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子供たちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ててほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援のもと、寄付金で運営されています。

2019年実績

ニューズレター発行：3回

体験型イベント：9件

参加人数：約200名

メンバー：2,068名



国際周期表年 2019 特別企画「周期表博士をめざそう！」(東京都)

化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約4,000名の参加者が化学の力を競い合っています。また、本大会で選抜された高校生は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加することができます。2021年は日本(大阪)で開催される予定です。

2019年実績

●化学グランプリ

[一次選考]参加者数：3,983名

会場数：全国65カ所

[二次選考]参加者数：76名

会場：工学院大学八王子キャンパス(東京都)

●第51回国際化学オリンピック フランス・パリ大会

代表生徒4名派遣(金メダル2, 銀メダル2)



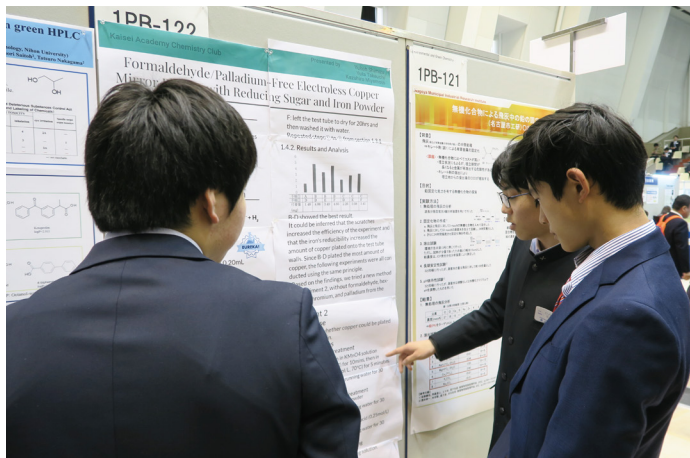
[上] 国際化学オリンピック表彰式

[下] 強化訓練合宿(TDK株式会社)



中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。夏には「JAIMA サマーサイエンススクール」へも参加しました。



中高生会員によるポスター発表(第99春季年会)

キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれが
face to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えのもと、
キャリア支援事業を行っています。

企業合同説明会・ 研究講演会

企業合同説明会は、就職活動の効率化・短期化を目的に「化学」に特化し毎年3月に開催するもので、法人会員の企業、化学系等専攻の学部生・大学院生が多数参加します。企業、学生のマッチングの場として、高い評価を得ています。

2019年実績

- 化学系学生のための企業合同説明会
企業50社、学生約3,000名参加
会場：タワーホール船堀（東京都）
- キャリアデザイン研究講演会
～化学研究と企業と君との出会いをさがそう！～
企業26社、学生約230名参加
会場：大阪府立大学I-site なんば（大阪府）



〔上・下〕企業合同説明会



就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年1月に開催されています。参加者からは『非常に効率よく大学就職担当の先生方と交流できた』『これまで大学で交流のある企業以外に出会えるチャンスがあって良かった』といった感想を頂戴しています。

2019年実績

- 第23回就職交流会
113名参加（35大学、35社）
会場：化学会館（東京都）



就職交流会

企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。参加した学生からは『大学での研究と会社での研究を結び付けて考えることができた』『後輩にも是非勧めたい』というような感想を頂戴しています。

2019年実績

- 日本ゼオン株式会社総合開発センター・・・12名
- 花王株式会社和歌山工場・・・17名
- 株式会社ダイセルイノベーションパーク、網干工場・・・13名
- 東ソー株式会社東京研究センター・・・18名
- 三菱ケミカル株式会社Science&Innovation Center・・・17名



株式会社ダイセルイノベーションパーク、網干工場見学

キャリア相談会

企業で活躍する先輩方と学生とがざっくばらんに質疑応答をするセミナーです。春季年会の会期中などに開催されています。学生にとって自身のキャリア形成を考える良い機会となっています。また、企業側としても学生の不安や疑問を聞けるため、自社アピールのポイントを整理できると好評です。

2019年実績

- 春季年会「大学生・大学院生のためのキャリアパスを考える相談会（ランチョンセミナー）」
参加者数：企業側11社、学生44名
- 化学系女子学生のための座談会（2021年3月卒）—女性の働き方を知ろう—
参加者数：企業側7社、学生48名 など



〔上・中〕第99春季年会ランチョンセミナー
〔下〕化学系女子学生のための座談会

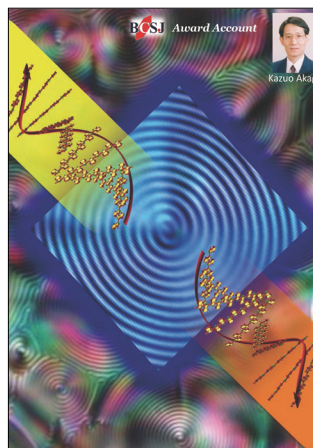
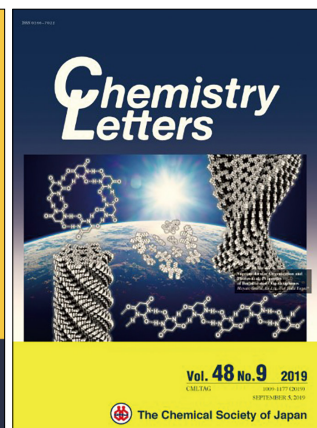
論文誌・出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

化学会ジャーナルの発行

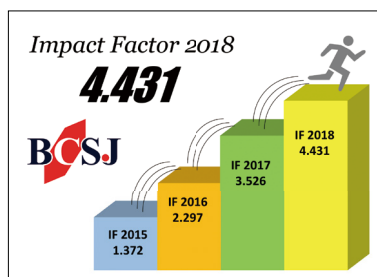
英文論文誌を世界へ発信

Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (1926年創刊、現在93巻、年間200論文ほど掲載)とChemistry Letters (CL) (1972年創刊、現在49巻、年間400論文ほど掲載)の2誌を発行。2019年1月より完全電子化。世界から見えるジャーナルを目指して、メールでの論文PR、国際会議での広告掲載やフライヤーの配布、ジャーナル名を冠した賞の授与を行っています。Perovskite Solar CellsやC-H Activation, Materials InnovationやLife ChemistryなどホットなテーマにてWeb特集も行っており、国内外を合わせて460機関が購読するなど、広く読まれています。



IFのトレンド

2019年に発表となったImpact Factor (IF)はBCSJが4.431、CLが1.485となりました。BCSJはここ4年間で1.372 (2015年)、2.297 (2016年)、3.526 (2017年)、4.431 (2018年)のように階段状にImpact Factorが伸びています。



SNS等を活用してのビジビリティ向上

2018年4月からTwitterを用いての論文PRや国際会議等でのジャーナルPRのお知らせを配信しています。フォロワー数は700名を超え、今後SNSを用いての情報発信もさらに強化していく予定です。

日本化学会(BCSJ/ChemLett)
@CSJournals JP
日本化学会ジャーナル The Chemical Society of Japan Editorial office,
Bulletin of the Chemical Society of Japan and Chemistry Letters
Chiyoda-ku, Tokyo journal.csj.jp
2018年4月からTwitterを利用しています
1 フォロワー中 702 フォロワー

機関誌

会員向け「化学と工業」, 「化学と教育」を毎月発行しています。

化学と工業

化学・化学工業分野の動きを他分野の方にわかるようにやさしく解説しています。本会と会員, 会員同士を結ぶ冊子です。

化学と教育

化学の分野を中心に話題の研究や技術をやさしく解説した特集と, 教育現場に役立つ化学実験の紹介などの連載記事を掲載しています。



図書

日本化学会では「化学便覧」「実験化学講座」「化合物命名法」「カレントレビュー」「化学の要点」など, 数多くの刊行物の編集・刊行で化学分野の発展に貢献しています。



論文誌姉妹誌

海外大手出版社やアジアの化学会と連携し, 英文論文誌を発行しています。



社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。

本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

SDGs (持続可能な開発目標) の推進

春季年会・CSJ 化学フェスタでは環境をテーマにした企画枠を設け、最新の研究を紹介しています。「化学と工業」誌では化学の観点から持続可能な社会に向けた提言を掲載しています。また、人類が直面する課題に化学者が自由に討議する CS3 会議を通じ、国際的な協力活動に参加しています。

2019年実績

- 15ヶ国の化学会が SDGs への取り組みに合意(パリ)
- 第8回CS3「Science to Enable Sustainable Plastics」(ロンドン)開催

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



男女共同参画の推進

2002年より「男女共同参画推進委員会」を組織し、化学者・化学技術者が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現させるための活動を行っています。

2019年実績

- 男女共同参画シンポジウム(第99春季年会)開催
- 女子中高生夏の学校2019への参加 など



女子中高生夏の学校

化学遺産関係

委員会への寄附を元に著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産を調査、認定、発表をしています。2019年は4件が化学遺産に新規認定されました。

2019年度認定化学遺産

- 第051号 タンパク質(チトクロムc, タカアミラーゼA)の3次構造モデル
- 第052号 日本の近代化学教育の礎を築いた舎密局の設計図(大阪開成所全図)
- 第053号 日本初の純国産「金属マグネシウムインゴット」
- 第054号 日本初の西洋医学処方による化粧品「美顔水」発売当時の容器3点



[上] チトクロムcバルサモデル(大阪大学蛋白質研究所)

[下] 美顔水容器(株式会社桃谷順天館)

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により 2013 年度に The Global Energy Prize (2002 年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞と云われる最も権威ある賞) を受賞された吉野 彰 氏 (旭化成株式会社, 日本化学会名誉会員) が, その報奨金をエネルギー, 環境, 資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄附され, その基金を基に 2014 年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

2019年募集テーマ

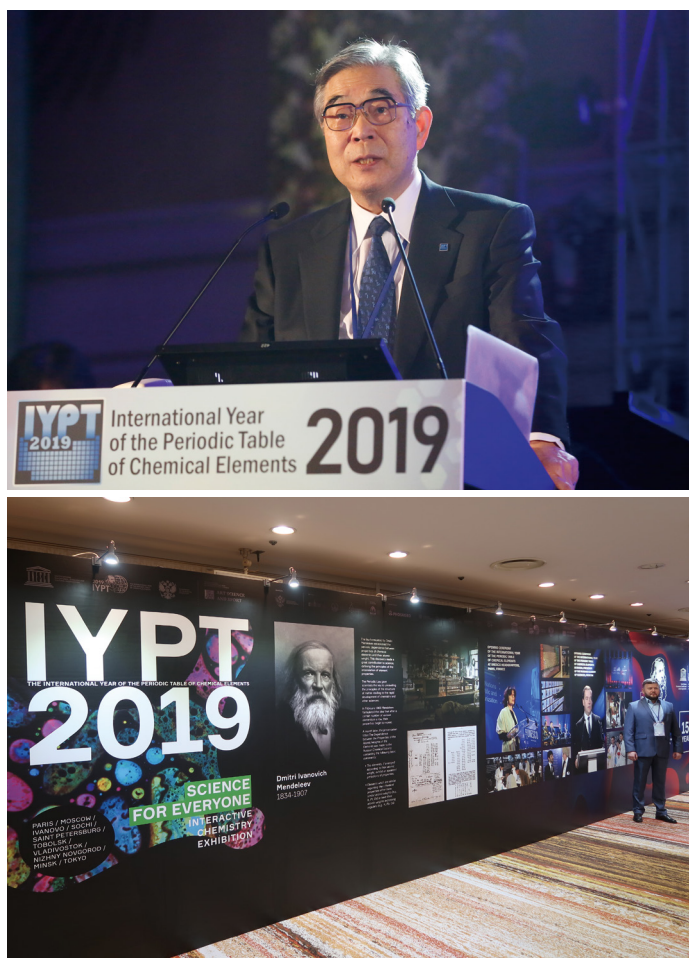
『低ポアソン比(負を含む)を有する弾性体に関する基礎研究』
助成対象者: 小椎尾 謙 (九州大学 先端物質化学研究所)
研究題目: 高度に配向した無機ナノシートが充填されたエラストマーの創製

国際周期表年 (IYPT)

2019 年はメンデレーエフが元素の周期律を発見してから 150 年にあたることから, UNESCO 総会にて 2019 年を「国際周期表年 2019: International Year of the Periodic Table of Chemical Elements 2019: IYPT2019」とすることが決まり, 様々な活動に取り組みました。

2019年実績

- 国際周期表年 2019 特別シンポジウム (第 99 春季年会: 日本物理学会年次大会と二元中継) 開催
- 国際周期表年 2019 巡回展 (全国 18 カ所)
- 私たちの元素 — 産学からのメッセージ・エッセイコンテスト
- 国際周期表年 2019 閉会式



[上・下] IYPT2019 閉会式

グローバル化

化学の世界で国際的に活躍できる人材育成, 研究推進を強力にサポートしています。
世界各国の化学会や関連団体と連携し, 日本の化学を世界に発信する場を設けると共に,
多様化する国際社会のニーズを収集する場として, 化学の発展に寄与する国際交流を推進しています。

国際的連携・協調, 異文化交流

化学の国連ともいえるべき IUPAC^{※1} や, アジア化学連盟; FACS^{※2} との国際協調, また ACS^{※3} と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize, RSC^{※4} との二国間協定に基づく PCCP Prize 受賞選考, 国際シンポジウムなどを行っています。また様々な国際会議にも出席し化学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。

2019年実績

- アジア国際シンポジウム (第99春季年会), 日英シンポジウム (仙台), IUPAC2019 (パリ), 第18回新芳香族化学国際会議 (札幌)



[上・下] IUPAC2019



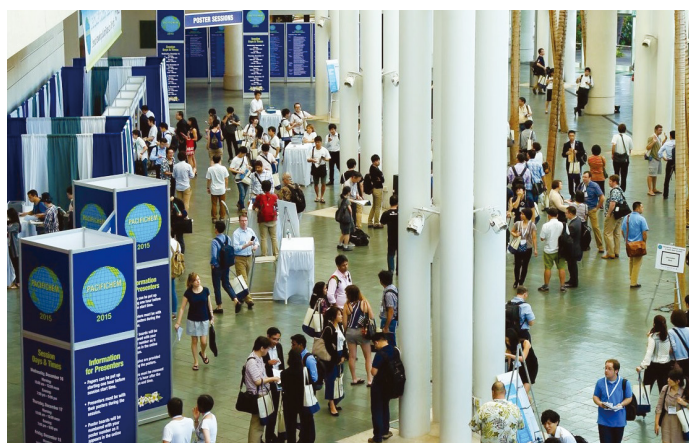
※1 国際純正・応用化学連合 ※2 Federation of Asian Chemical Societies
※3 アメリカ化学会 ※4 英国王立化学会

Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

5年に1度, 世界化学界の一大イベントである Pacificchem をハワイ・ホノルルで開催しています。次回2020年の第8回目は日本がホスト国となります。日米加の設立3学会に加え, 中韓豪およびNZの7化学会が共同主催し, 前回2015年には, 世界71カ国, 15,700余名の参加者を迎え18,000件を超える講演が行われました。次回2020年はテーマを“Pacificchem 2020: A Creative Vision for the Future”とし, 12月15日から6日間同ホノルルで開催されます。

開催までの流れ (2020年)

- 1～5月: 講演申し込み
- 7～10月: 参加登録 (Early Registration)
- 夏以降に講演プログラム公開を予定
- 12月15日: 開会式 (基調講演: 川合眞紀前会長)
- 12月16日: Student Research Competition (240名一次通過者から40名の受賞者選定)
- 12月20日: 閉会式



[上] 第7回 Pacificchem (2015年12月ホノルル・ハワイ)

[下] 第8回 Pacificchem ポスター



企業・団体からのご支援

化学に関連する

多くの企業、団体のご支援をいただいております。

100口以上

TORAY

**MITSUBISHI
CHEMICAL**

KaO

FUJIFILM

50口以上

AsahiKASEI

AGC

kuraray

**SHOWA
DENKO**

住友化学

DAICEL
株式会社ダイセル

Color & Comfort

DIC株式会社

TOSOH

東ソー株式会社

**MARUZEN
PUBLISHING**

Mitsui Chemicals

Mitsui Chemicals

10～49口以上

化学

(株) ADEKA
荒川化学工業(株)
字部興産(株)
(株) 大阪ソーダ
(株) カネカ
関西ペイント(株)
クマイ化学工業(株)
(株) クレハ
興和(株)
三洋化成工業(株)
JSR(株)
JNC(株)
塩野香料(株)
信越化学工業(株)
住友精化(株)
住友ベークライト(株)
積水化学工業(株)
セントラル硝子(株)

高砂香料工業(株)
デンカ(株)
東亜合成(株)
東洋インキSCホールディングス(株)
(株) トクヤマ
日亜化学工業(株)
日油(株)
日産化学(株)
日鉄ケミカル & マテリアル(株)
日本化学工業(株)
日本化薬(株)
(株) 日本触媒
日本ゼオン(株)
日本曹達(株)
長谷川香料(株)
日立化成(株)
富士フイルム和光純薬(株)
三菱ガス化学(株)
ライオン(株)

医薬品

アステラス製薬(株)
小野薬品工業(株)
協和発酵キリン(株)
塩野義製薬(株)
第一三共(株)
大正製薬(株)
大日本住友製薬(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)
Meiji Seika ファルマ(株)

ゴム製品

(株) ブリヂストン
横浜ゴム(株)

食料品

味の素(株)
サントリーホールディングス(株)

石油・石炭製品

出光興産(株)
JXTG エネルギー(株)

繊維製品

帝人(株)

機械

ダイキン工業(株)

建設業

日揮(株)

公的研究機関

(国研) 理化学研究所

精密機器

(株) 島津製作所

電気機器

コニカミノルタ(株)

非鉄金属

住友電気工業(株)

口数、業種別に 50 音順・敬称略 (2020 年 4 月 1 日現在)

他にも幅広い業種 (電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等) を含む多くの企業・団体にご支援いただいております。
詳細は下記 URL をご参照ください。(427 社)

<http://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

化学会概要

沿革

- 1878 年（明治 11 年）化学会創立，翌年，東京化学会と改称
- 1898 年（明治 31 年）工業化学会創立
- 1921 年（大正 10 年）東京化学会が日本化学会と改称
- 1941 年（昭和 16 年）社団法人に移行
- 1948 年（昭和 23 年）日本化学会と工業化学会が合併
- 1978 年（昭和 53 年）創立 100 周年記念
- 1991 年（平成 3 年）化学会館竣工
- 2003 年（平成 15 年）創立 125 周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
- 2011 年（平成 23 年）公益社団法人に移行
- 2018 年（平成 30 年）創立 140 周年

会員（2020 年 2 月末現在）

約 2.5 万人の会員を擁し，国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は 427 法人。

会員種	
個人正会員	17,745
学生会員	5,181
中高生会員	72
教育会員	1,604
名誉会員	77
法人正会員	427
公共会員	381
合計	25,487

目的・事業

（目的）

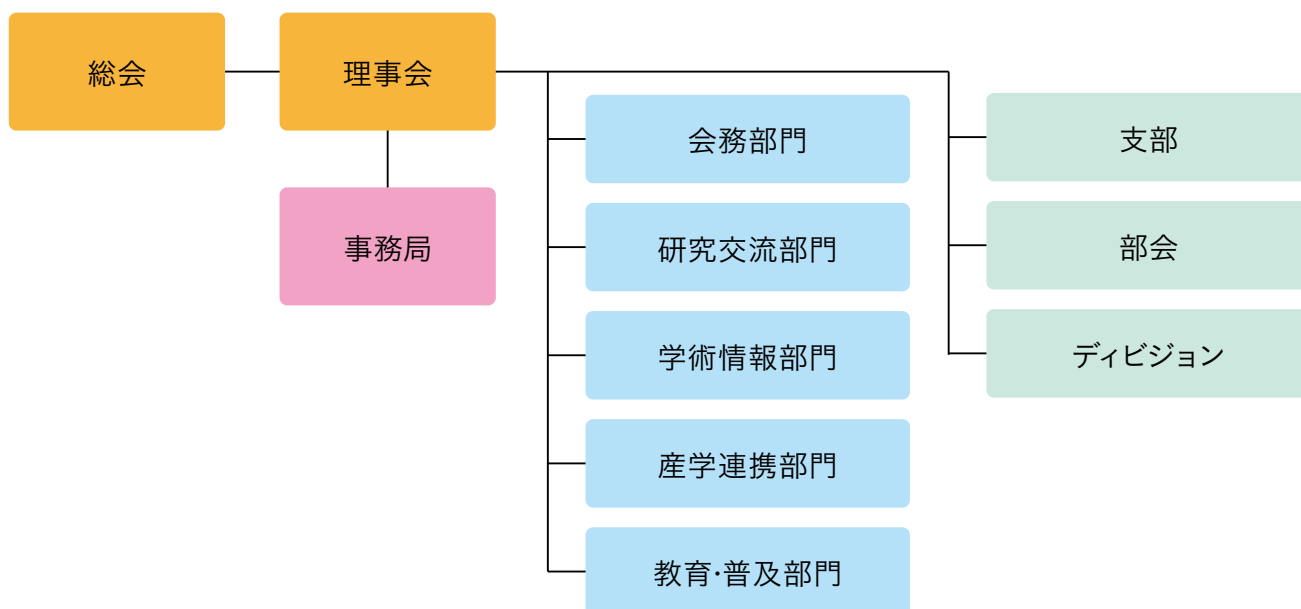
本会は，化学に関する，学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及，並びにそれを担う人材の育成を図り，もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第 3 条）

（事業）

本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
 - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
 - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
 - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
 - (6) 化学知識の普及に資する事業
 - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
 - (8) 化学の振興に関する政策提言
 - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
 - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
 - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は，日本全国及び海外において行うものとする。（定款第 4 条）

組織図



役員 (2020年5月25日現在)

会長	小林喜光 (㈱三菱ケミカルホールディングス)	理事	北山健司 (㈱ダイセル)
筆頭副会長	加藤昌子 (北海道大学)	理事	近藤輝幸 (京都大学)
常務理事	澤本光男 (中部大学)	理事	薩摩 篤 (名古屋大学)
副会長	織田佳明 (住友化学㈱)	理事	高井和彦 (岡山大学)
副会長	酒井一成 (DIC ㈱)	理事	中井浩巳 (早稲田大学)
副会長	中村 聡 (沼津工業高等専門学校)	理事	中嶋 敦 (慶應義塾大学)
副会長	三浦雅博 (大阪大学)	理事	野崎京子 (東京大学)
副会長	渡利広司 (産業技術総合研究所)	理事	林 高史 (大阪大学)
理事	安中雅彦 (九州大学)	理事	林雄二郎 (東北大学)
理事	五十嵐仁一 (JX リサーチ㈱)	理事	原 亨和 (東京工業大学)
理事	石坂昌司 (広島大学)	理事	山内 薫 (東京大学)
理事	市川淳士 (筑波大学)	監事	北村二雄 (佐賀大学)
理事	及川英秋 (北海道大学)	監事	武馬吉則 (花王㈱)
理事	岡野知道 (ライオン㈱)	監事	谷口 功 (国立高等専門学校機構)
理事	小川周一郎 (旭化成㈱)	監事	茶谷直人 (大阪大学)
理事	小柳津研一 (早稲田大学)		

計 31 名

会計報告 (2019年度)

貸借対照表 (要約版)

2020年2月29日現在

科目	(単位：千円)
I 資産の部	
流動資産	206,911
固定資産	1,652,042
基本財産	583,846
積立資産 (一般正味)	809,509
積立資産 (指定正味)	94,121
その他固定資産	164,566
資産合計	1,858,953
II 負債の部	
流動負債	267,085
固定負債	124,959
負債合計	392,044
III 正味財産の部	
指定正味財産	94,121
一般正味財産	1,372,788
正味財産合計	1,466,909
負債及び正味財産合計	1,858,953

正味財産増減計算書 (要約版)

2019年3月1日～2020年2月29日

科目	(単位：千円)
受取会費等 (会費・部会費等)	267,348
事業収益	533,479
受取補助金等・受取寄付金・雑収益	103,091
経常収益 計	903,918
事業費	861,238
管理費	49,011
経常費用 計	910,249
投資有価証券評価損益等	1,322
当期経常増減額	△ 5,009
法人税等	△ 70
当期一般正味財産増減額	△ 5,079

受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	35,300
徳山科学技術振興財団 他	17,505
計	52,805

受取寄付金内訳

	(単位：千円)
化学振興事業	30,849
化学だいすきクラブ事業	4,481
化学遺産事業	1,289
計	36,619

ノーベル賞受賞会員



©*The Nobel Foundation.

化学賞（2019年受賞）

吉野 彰

受賞理由：リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受賞



2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由：線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1999年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞

2008年
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由：緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由：生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治（日本化学会 元会長）

受賞理由：不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由：導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一（日本化学会 元会長）

受賞理由：化学反応過程の理論的研究



公益社団法人
日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318
<http://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス
印刷: 株式会社三永印刷

2020.06.

